

ぱぴるす

文化公園アートフェスティバル2013が行われました！

7月26日から28日にかけて、市民文化公園にて、文化公園アートフェスティバル2013が開催されました。3日間は悪天候が続いたため、青空こどもとしょかん・本のぱくりっこ市はそれぞれ会場を変更しての開催となりましたが、各イベントともに大盛況となりました。

- 7月26日 カルチャーナイト「朗読とギターのタベ」
中央図書館1階エントランスで開催されている、ギター演奏と朗読のコラボレーションイベントも今年で3回目の開催となりました。ギター演奏を竹形貴之さんに、物語や詩の朗読を図書館ボランティアのおはなしオルゴールさんと、苫小牧東高校演劇部さんに参加していただきました。当日は80人が来館しギターの音色と物語・詩の世界を堪能されていました。



←
ギター奏者の竹形貴之さん。
今年も素敵なギターの音色を
聞かせていただきました。 →
おはなしオルゴールの皆さんは
本を持たないで「ストーリーテ
リングで物語に引き込みます。



東高校演劇部の皆さんは10人の
大所帯で参加。
2階からの朗読と階段を使っての
演技で若いパワーと力強くを見せて
くれました。



- 7月27日 青空こどもとしょかん
悪天候のため、2階講堂で開催されました。お子さんを中心に70人にご参加いただきました。紙芝居や絵本の読み聞かせのほか、ペープサートと呼ばれる人形劇、手遊びを楽しみました。



新着図書(一般書)

お役立ち本

『インターネット選挙運動ガイドライン』 ぎょうせい
 『演じてみようつくってみよう紙芝居』 長野 ヒデ子/編著 石風社
 『海外パッキングツアーをVIP旅行に変える101の秘訣』 実業之日本社
 『車の運転が怖い人のためのドライブ上達読本』 小沢 コージ/著 宝島社
 『コイン・コレクションのはじめかた』 柘植 久慶/著 PHP研究所
 『高校野球を200%楽しむ観戦読本』 手束 仁/著 実業之日本社
 『女性のための囲碁の教科書』 吉原 由香里/監修 滋慶出版 土屋書店
 『楽しく描く油絵Style & Process』 森田 和昌/著 マガジンランド
 『Twitter | Facebookで今すぐ使える英語表現1200』 語研
 『手作りロケット入門』 誠文堂新光社
 『内縁・事実婚をめぐる法律実務』 曾田 多賀/編著 新日本法規出版
 『難読・誤読駅名の事典』 浅井 建爾/著 東京堂出版
 『分冊六法全書 25年版』 全6巻 新日本法規出版
 『北海道16の自転車の旅』 長谷川 哲/著 北海道新聞社
 『水あそびプールあそび大図鑑』 かもがわ出版

海外文学

『永遠のアダム』 ジュール・ヴェルヌ/著 文遊社
 『シスターズ・ブラザーズ』 パトリック・デウィット/著 東京創元社
 『白い人びと』 フランシス・バーネット/[著] みすず書房
 『たんぼぼ娘』 ロバート・F.ヤング/著 復刊ドットコム
 『半島の密使』 上下巻 アダム・ジョンソン/[著] 新潮社
 『百年祭の殺人』 マックス・アフォード/著 論創社
 『LIFE ON MARS火星の生命』 トレイシー・K.スミス/著 平凡社

日本文学

『あとかた』 千早 茜/著 新潮社
 『美しい心臓』 小手鞠 るい/著 新潮社
 『おれたちの約束』 佐川 光晴/著 集英社
 『俺は駄目じゃない』 山本 甲士/著 双葉社
 『神さまのいない日曜日』 1~2巻 入江 君人/[著] 角川書店
 『考えすぎた人』 清水 義範/著 新潮社
 『月下上海』 山口 恵以子/著 文藝春秋
 『高校入試』 湊 かなえ/著 角川書店
 『歳月がくれるもの』 田辺 聖子/著 世界文化社
 『人生という旅』 小檜山 博/著 河出書房新社
 『聖なる怠け者の冒険』 森見 登美彦/著 朝日新聞出版
 『宝探しトラジェディー』 木下 半太/著 幻冬舎
 『みぞれふる空』 米本 浩二/著 文藝春秋
 『「やりがいのある仕事」という幻想』 森 博嗣/著 朝日新聞出版
 『ルカの方舟』 伊与原 新/著 講談社

歴史・時代小説

『大山まいり』 岡本 さとる/著 祥伝社
 『かまさん』 門井 慶喜/著 祥伝社
 『雪月花・江戸景色』 平岩 弓枝/監修 光文社
 『徳川家慶、推参』 千野 隆司/著 角川春樹事務所
 『涙めし』 松岡 弘一/著 徳間書店
 『残り鷲』 藤原 緋沙子/著 祥伝社
 『流水浮木』 青山 文平/著 新潮社



『**ぼくは、図書館がすき**』
 漆原 宏/著 日本図書館協会出版

笑顔。真剣。子ども。大人。古い本。新しい本。沢山の図書館のそんな生き生きとした表情を切り抜いた写真集です。



『**親子の自由研究**』
 本田和良/著 東方出版

工作や手芸よりも敬遠されがちな自由研究に15年間取り組んだお父さんの奮闘記。ズルも怠けもする子供を相手に、お父さんはどう立ち向かったのでしょうか。



『**復興グルメ旅**』
 興グルメ取材班/著 日経BP社

おいしいものを食べるだけで、被災地のエールができる。一粒で二度オイシイ思いをしたい、ちゃっかりものな方おすすめの本。



『**泣き童子**』
 宮部みゆき/著 文芸春秋

三島変調百物語の第三巻。ふしぎな話を語り、袋物屋三島屋へ今回やってきたのはお店の嬢さんに武士、そして……。

本の情報・話題の本

図書館に住む本の話

今回のテーマ: よくある質問・便利な本

日々、図書館には質問や調査が寄せられますが、その中には度々寄せられる質問もあります。例えば「昔の●●という歌の歌詞を知りたい」というもの。カラオケの練習のためだったり、大勢で合唱するためだったり皆さんの目的は様々です。その時にご案内する資料は『心に残るカラオケ名曲1200』(911.66)。昭和の名曲から最近のヒットソングまで幅広く掲載しています。また民謡・軍歌、童謡ならば、『日本歌謡大全集』(767.8)では2000曲以上の歌詞を調べることができます。図書館ではこのように身近なご質問のお手伝いもしております。お気軽に職員まで声をおかけください。



予約本ランキング



「色彩を持たない多崎つくると、彼の巡礼の年」 村上春樹 (100)

- 2 『海賊とよばれた男』 百田尚樹 (94)
- 3 『夢幻花』 東野圭吾 (92)
- 4 『ホテルロイヤル』 桜木紫乃 (80)
- 5 『大泉エッセイ』 大泉洋 (72)
- 『64』 横山秀夫 (72)

- * 『虚像の道化師』 東野圭吾 (54)
- * 『ハピネス』 桐野夏生 (54)
- * 『ソロモンの偽証』 宮部みゆき (52)
- * 『桜ぼうさら』 宮部みゆき (51)

芥川賞・直木賞作品(2013上半期)

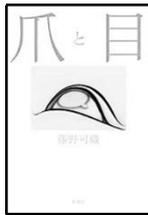
『爪と目』 藤野可織/著

新潮社(発売予定) *新潮2013年4月号収録

その他候補作)

- 『想像ラジオ』 いたうせいこう/著
- 『すっぽん心中』 戌井昭人/著
- 『すなまわり』 鶴川健吉/著
- 『砂漠ダンス』 山下澄人/著

※書籍化されていない作品は雑誌で閲覧できます。



芥川賞

『ホテルロイヤル』 桜木紫乃/著 集英社

その他候補作)

- 『巨鯨の海』 伊藤潤/著 光文社
- 『夜の底は柔らかな幻』 恩田陸/著 文藝春秋
- 『ジヴェルニーの食卓』 原田マハ/著 集英社
- 『望郷』 湊かなえ/著 文藝春秋
- 『ヨハネスブルグの天使たち』 宮内悠介/著 早川書房



直木賞

図書館員の読書日記

今回は「A」の日記です

つい先日、中央図書館で仕事、ある男性から「アイスホッケーの教本は置いてませんか？孫がアイスホッケーを始めたもので」と聞かれ、とてもうれしい気持ちになりました。

何故そんな気持ちになったかというと、みなさん御存知のように苫小牧は釧路とともに日本のアイスホッケー界にたくさんの名プレイヤーを送り出し氷都として知られていますが、最近では少子化、長引く不況による企業スポーツの撤退など原因は定かではありませんが、アイスホッケーをやる子供が激減しています。私が子どもの頃は市内の小、中学校すべてにアイスホッケー部がありましたが、最近は単独でチームを作れず、合同A又は合同Bのようなチーム名になっていて一体どこの学校が強いのか、新聞を見てもさっぱりわからない現状です。

当然市内のリンクも次々と姿を消していき、苫小牧の【スケートの街】という文化が薄れているなど自分自身感じていた中で、まだアイスホッケーをやりたい子どもがいるのかとうれしくなりました。

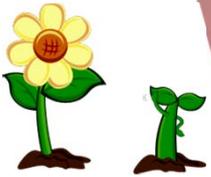
そんな中、数年前図書館に、『スピナマラダ』というアイスホッケー漫画が寄贈されました。読んでみると、苫小牧の街を舞台にストーリーが展開していて苫小牧駅や、たぶん金太郎池と思われる沼など、苫小牧の街の絵をそっくりそのまま描かれていて苫小牧に住んでいる読者ならかなり楽しめ、ストーリーもおもしろいのでブームになる予感がしました。私が思うに日本人は、社会的ブームに熱しやすい国民性なのでかつてサッカーブームを巻き起こした「キャプテン翼」、バスケットブームを巻き起こした「スラムダンク」のようにアイスホッケーブームがくると確信しました。しかしアイスホッケーブームは今のとこきていません・・・。

ちなみに私の息子は、サッカーをしています。



『スピナマラダ』
全6巻 (726.1/7)
野田 サトル/著者
集英社

こどもの本の ページ



「ボールのまじゅつし
ウィリー」
ブラウン、アンソニー／さく
評論社 エボ

「くまさんのおたすけえんぴつ」
アンソニー・ブラウン／さく
BL出版 エク

アンソニー・ ブラウンさん



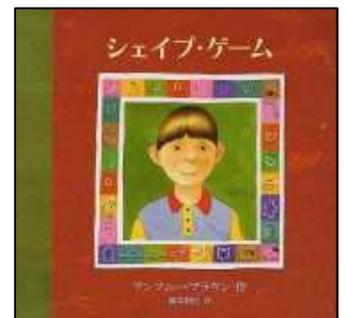
1946年、イギリス生まれの絵本作家。ケイト・グリーナウェイ賞を2度受賞、2000年に国際アンデルセン賞を受賞するなど、受賞歴多数。2009年から2011年には、イギリス児童文学の最高の称号「チルドレンズ・ローリエト」を授かった。主な作品に『森のなかへ』『かわっちゃうの？』（ともに評論社）『くまさんのまほうのえんぴつ』（BL出版）など、これまでに40近くの作品を発表している。



「びくびくビリー」
アンソニー・ブラウン／さく
評論社 エヒ

「くまさんのまほうのえんぴつ」
アンソニー・ブラウンと
こどもたち／さく
BL出版 エク

(『くまさんのおたすけえんぴつ』奥付より)



「うちのパパってかっこいい」
アンソニー・ブラウン／さく
評論社 エウ

「うちのママってすてきな」
アンソニー・ブラウン／さく
評論社 エウ

「シェイプ・ゲーム」
アンソニー・ブラウン／作
評論社 エシ

郷土・参考資料室からのお知らせ

図書館で新聞調査

郷土・参考資料室の資料のなかで、最も利用が多いもののひとつに過去の新聞があげられます。新聞は当時の時事問題やニュース、また自分が生まれた日の事件についてなど特定の日の出来事を調べる際などに利用されます。

今回は、当資料室で保存している新聞についてご紹介したいと思います。

当館では、全国紙（読売、朝日など）と地方紙（苫小牧民報、道新など）などの購入紙の他に、寄贈いただいているものがあります。

全国紙のほとんどは1年保存ですが、地方紙は永年保存をしています。いずれも月ごとにまとめて綴り、当月分は1階閲覧室、前月以前で利用が多い新聞は半年、または1年分を2階資料室で、さらにそれ以外のものは閉架書庫で保存しています。

閲覧室に出ているものは当館で所蔵している新聞のほんの一部ですので、お探しの新聞が見当たらない場合は、カウンターにてお尋ねください。

次に保存している時期ですが、現物の永年保存の新聞では、最も古いもので昭和26（1951）年から保存しています。ただし、古い新聞はボロボロで紙ももろくなっているものが多いため、ご利用の際は原紙のコピーなどを利用していただくこともあります。

現物で所蔵している主な永年保存の新聞

* 苫小牧民報 *

昭和26年から現在まで（一部コピーあり）

* 北海道新聞 [苫小牧版] *

昭和26年から現在まで

* 北海タイムス *

昭和26年から平成10年9月2日
（この日をもって休刊）まで

* 室蘭民報 *

昭和41年から現在まで（途中欠あり）



当館の取扱い新聞の詳細については、図書館HP「新聞／雑誌一覧」（※）から「取扱い新聞一覧」で確認することができます。また、カウンターにも一覧をご用意していますので、ご覧ください。

次回は、現物以外の新聞と、その閲覧についてご紹介いたします。

（司書：西保）

※参照URL：苫小牧市立中央図書館HP「取扱い新聞雑誌」
http://www.city.tomakomai.hokkaido.jp/toshokan/shinbun_asshi.htm

新着図書を紹介

新しく入荷した図書の紹介です

『石川啄木と北海道』

(H910.268/1)
鳥影社・刊



昨年、没後100年を迎えた石川啄木。短い生涯において北海道で過ごしたのはわずか1年足らず。しかしその後の作品に大きく影響を与えた北海道における啄木の全体像に迫る。

（郷土資料）

『東北近代文学事典』

(910.26/1)
勉誠出版・刊



前段で紹介した石川啄木や太宰治を生んだ東北地方の近代文学界を、人名篇と事項篇で編さんした事典。収録作家の県別一覧や、東北の文学関連施設一覧など付録も充実している。

続刊として刊行された「北海道文学事典」も近日入荷予定。

（参考資料）



これらの本は2階参考資料室で見ることができます。

参考図書室・郷土資料室のご利用に際して

★かばん等の持ち込みはできません。手荷物をロッカーにお預けの上、筆記用具類のみをお持ちになってお入りください。

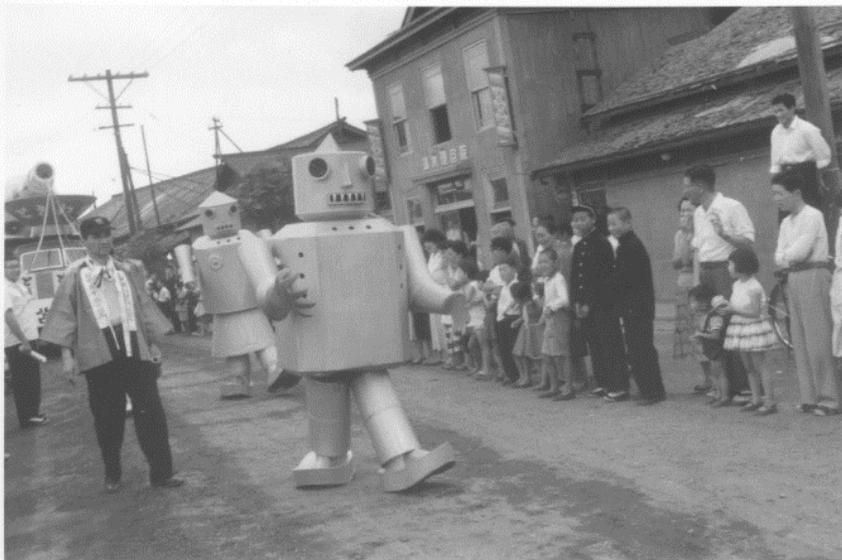
★資料室には自習のための席はありません。自習する方は、2階電子情報サロン隣の『自習室』をご利用願います。

～郷土資料コーナーで見つけた～

ふるさとの一片(59)

第一回港まつり

—3kmにも及ぶ仮装行列—



苦小牧の夏の風物詩といえは濃霧と港まつりでしようか。

港まつりの最終日、打ち上げ花火で苦小牧の短い夏の幕が下り、すぐに盆が来て秋になります。今年には開港五十周年ですが、港まつりは五十八周年を迎えます。開港より長い理由は、港ができる前から開港を祈念し「まつり」を催していたからです。

港まつりの前身として観光まつりがありました。これは昭和二

十五年(一九五〇)から六回開催され、港まつりに変わります。

第一回港まつりは昭和三十一年(一九五六)八月十四日から十六日の三日間開催されました。当時の苦小牧市の人口は五万三千人ほどでした。それに対し港まつりの人出は八から九万人も集まりました。第二回目の特色としてはミスコンテストが初めて行われ、初代ミス港まつりがお披露目されました。全道から集まった六

十余頭もの土佐犬の闘犬大会や女子プロレスも興行されました。

しかし、なんといっても目玉は仮装行列でしょう。八月十七日の苦小牧民報には「仮装行列実に三キロ、車百台、人五百二十名が参加、沿道は人垣で埋まる」とあります。左上の写真はそのときのもので、順に、ロボットの仮装、ミス港まつりを乗せた実行委員会、旅館の二階から乗り出している見物人たちが活

写されています。

写真の富士館旅館は、大正十三年(一九二四)五月二十一日に宮沢賢治が修学旅行の引率教師として泊まった老舗旅館です。

これらの写真は、当時の街並みを知る上でも貴重な郷土資料といえます。(大泉)

参考文献

苦小牧市史(下)

● 7月28日 本のばくりっこ市
 悪天候のため、サンガーデン1階展示実習室で開催されました。初めての屋内開催となりましたが、120人以上の方が交換用の本を持参し、大盛況となりました。



行事のお知らせ

赤ちゃんとお楽しむはじめての絵本ひろば

日 時 8月23日(金) 10時30分～11時30分
 会 場 中央図書館 2階 講堂
 対 象 0歳児とその保護者
 内 容 赤ちゃんとお絵本の出会いを目的とし、絵本の紹介、読み聞かせの方法、読書相談などを行います。
 定 員 15組(キャンセル待ち3組) 参加無料
 申込方法 8月7日(水)～8月13日(火) 9時30分から開館時間内、中央図書館カウンターまたは電話(35-0511)で受付します。
 定員を超えた場合は、8月14日(水)に抽選。
 申込者全員に8月14日(水)に電話連絡いたします。

寄付・寄贈ありがとうございました。(平成25年5月21日～7月20日)
 個人 154件 2437冊 団体 72件 138冊

今後の予定	★ 閲覧室入口 開催中 世界の博物館・美術館 8月27日～9月26日 公害・災害から身を守る(防災)
	★ 児童コーナー 開催中 平和記念旬間展示(児童) 8月27日～9月26日 月とうさぎの本
	★ 一般書コーナー(検索機横) 開催中 平和記念旬間展示(一般)
	★ 特集展示(新刊本横) 開催中 ビートルズ&クイーン
	★ エントランス 開催中 苫小牧美術の原風景

※ 休館日の展示の公開はありません。
 ※ 行事・催し・展示については、変更・中止になる場合がございます。

中央図書館カレンダー

※黒塗り白字になっている日は休館日です
 丸印がついている日は午前9時30分～午後5時開館
 印が付いていない日は午前9時30分～午後7時開館

2013年8月

日	月	火	水	木	金	土
						③
④	5	6	7	8	9	⑩
⑪	12	13	14	15	16	⑰
⑱	19	20	21	22	23	⑳
㉕	26	27	28	29	30	31

9月

日	月	火	水	木	金	土
①	2	3	4	5	6	⑦
⑧	9	10	11	12	13	⑭
⑮	⑰	17	18	19	20	⑳
㉒	㉓	24	25	26	27	㉘
㉙	30					

10月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	⑤
⑥	7	8	9	10	11	⑫
⑬	⑭	15	16	17	18	⑰
⑳	21	22	23	24	25	㉖
㉗	28	29	30	31		